寶水八年庚

元日

ふしめや（ミカ）旌山と四方の春 言水

何浪もしばらく春の郊遠山 全

下萌の苔蕪の男あるじ迄又閑 全

全

世よう大ぬ（ママ）弧（ママ）つ梅の名前

漁村の網は雛菊ようを 後言水

老のもの髪もく馬のうに（ママ）造（ママ）山 全

全

ふくれ行くる詩のほの芽 又閑

石ま（ママ）も貴ふ木の梢（カジ）色いの寸念と椿かて 言水

須日の余言ハ櫻うゑ庭うめ盛科
正月八毛ゐ待ッ抱ハ司う朴友元
梅折ゐ大近のる場ゐ鳥姑矢海
名ゐゐ見し白ん人次蓼ゐ之越抱河都名
茎天ハ宝ゐ書ハうゐり張敲ト誰
折ル〳〵梅名参朝のゐ雑さ千冊
あ〳〵むやこの間久て北の余こと培動
展蘇のあや北下ゐ八腸(エクボ)ゐる波を汀落

尾

真都三童ノ甲ヲ上ルハ
覧一童ノしノ二收

ゐの色捻投ゐゐ抱ゐれ珠含
線ゐりや梅ゐ梅ゐ白こ笑也長
ゐしよそよゆくもの九折光教

言水引付門二

鶏旦

業井ゐ函親也人や百千鳥 梨香
ゐゐ男ゐゐの親やゐ弐〳〵一真
ゐゐや雪賢の間ハ行の書(カガ) 覧
ゐゐやよゐゐ柳水伊成
初ゐや五の味ゐ戎堂(タナゴロ)井蝙
おゐ海ゐ戎店越ッ何の筆(カガ)梅南
策ゐ肩月ゐ余ゐ二義 保才

保ゐ

ゐ浪ゐ新の仏

梨香

乳の母（ママ）
抗（イナム）とめて年あ
呼ぶ
春中より師匠
忙（イソガス）
始めのてそ

せいほ

何ぞ千ら琉球人の降夜
鄧（ママ）
ろ〻人蕃
（ママ）

一真
はれ
伊成
梅南
井輔
（ママ）
（ママ）
（ママ）

元日

年水や羽根よりうすき鈴小
春百代のくるゝ朝の雲 松下
いと遠い梢の暖かさうなそして 枕水

仝

元朝や何大黒の笑(タ)顔見ん 秋物
初日影もつくしの黄(コケ)古一松
雪と棄(ス)てし味噌の玄(ク)米よ 惟水

仝

松下
吟つゝ小延(ノビ)び鈴や雨さの鞍
春の峰出(イ)よ四方の門雲 日
年玉も初日も色と初(ソ)て 日

言水門弟四

聖節

年初(ハツ)入冨士冬もなき日の雲 南都 芦鶴
吉声(ニヤ)匹(ニ)〳〵車安(ヤス)き鼓山
ふゝく物の脉(ミヤク)は梅よ(タ)うて 龍湖

仝

紙(シ)ハ冠墨(ボク)ハ勢(セイ)うと今(イマ)の梅
歯朶(シダ)ゝくよ恵相の坂 芦鶴
駿(シユン)足(ソク)よまび(ム)ろ
年(ネン)籠(ロウ)の物かゝせて遣(ツカ)す

元旦

新玉や梅干の枳を刀禁　速水氏 助水

むめゝ香ゝ盃ゝ鼠ゝ竹

二月や次郎狐ゝ君ゝ盃ゝ鼠ゝ竹　宮城氏 仝

二

えとや今朝ゝ義ゝ鼠ゝ竹

代と厳よむゝ蓬莱　助水

鶯の拝を九ゝ銀とろゝく鼠ゝ竹　大角氏 仝

三

ひくゝもや文巻くゝの箒の袖

門松よゝ九降ゝ雪ゝの竈ゝ如竹

七種や八つ月八嫁菜ゝ老て　助水

仝

蓋開や梅ゝ薫ゝ盃ゝ鼠ゝ竹　敦山

鶏春ゝ真ゝ役ゝ何許

朧月吉金ゝ友ゝ吹かえゝ蓑

翠竹

松梅ゝ薫ゝ盃ゝ鼠ゝ竹　陸程

門よ犬猫ゝ入ぬ昨ゝ小宇一

ゑの尾ハ

陽炎ゝ

それゝん可入

大晦日投ありし一筋助水
夜の鴉何の苦もなく小晦日如行
もの書二階や文の雑波浮鼠竹

元日

掛ひし業共ゆらく春と来ル芦月
大内へ初音と急げ今衣島伴誰

せいほ

人の乳も濁ぬ水の若若南都友若
指て折て梅椿姫ぞ芽ぬ末満水

元旦

天地のめぐりてとめぞ宮の同

言水引 付句 六

雑旦

人丸ハいつのあめぞの石の初春　丹後峰山辻氏　嵐松
ち鳥水よ軽きえ日今

梅松や御城の垂木枝栄て今　羽田氏　琴桐

仝

苔水や古今共序よ鳥乃記
湯花と育(ソダツ)新法陽(ヒ)門松同
名橋の狩ハ春乃撰分て同

同

門出よ一万歳腰のかく見ゆ　小倉氏　岸松
大悟ゆくもそ琉球今もやまと哉　樫

歳暮

元日

御一条ろ

拍子

今

二階乃大燵炬燵と
きよ隣乃俤と
嵐の嵐にて袖よ
おもふこともそ幸く
捐ゐのれ其冷
元日

袖招りや一歩検挍門の春影也

歳旦

我心浪しもうまの〇の吉兼順
元日
墓国にて右のの吉兼
物の要 同

梅くしまや福山猶たつ 作

高水引付門八

詩筆

同(ヒ)五作の例りし
染物をうの御俤記と
百腐や名物名れし

冊吉序 孤山

綺傳記の梅も新やな仇硯
屠蘇乃法徳をそ山路老 良長
ワトリ
乃夜達日永き鶏の声成
四中氏
全

二

我と居ん愛ともさてくめ
汲井のむへ屠蘇れ 兄 孤山
臘氏月やとの春もと中くよ 良長

三

門松は冥途の旅の一里塚　甲氏良长

屠蘇のうしきふかいの子成　多多ハ郭蒙駄

耕と植う亜細は南亜て　孔山

よ尾

御即位の目出たさつらつらの　書安居孤山

この数とも知らぬ程よ　龍松子成

鰯やそもそも跟（カキル）の　二川亭良长

それの八

言水引付

鶏頭

新宅やたそ彼此と　丹宮庫　艸芝

むよよみ名もよた花の鶏　萬水

ひぎ苞豹日ふ　高氏　今

二

額まもや八百日沙汰　艸芝

華一かく開くかな　萬水

相茅蜩儿帳のそ　仁宮　今

三

共い家鶏なのく

え方の茅よ

人の揚と油もの

元旦

くらのめの初春ごとの福寿草　水上氏　暁窓

延(ノベ)て長のすやもろこしの松　木下氏　暁窓

羊尾

春来て竈(ヘツヒ)て時雨ふ謝の海　暁窓

函数雪の傘ともも萬歳

若狭やこの松よ久安の元(ゲン)　松流

もろ雪を添して雲を標(シメ)小可昌

もろ二日延(ノベ)を酒乃三もも　法哉

さす枝も松朝の乱又古外

成仁の長みもろくの若　暁窓

水上氏　暁窓

一

国国や雄も孤の翁の小法

家のくら梅乃北面　法哉

出若の神よす志ゆき夢て　松流

田中氏　公

二

吹さほひ初十声盤も賀

今日寿とものまや盛　暁窓

鷹宝と乗馬征(セイ)よ行三ツ　法哉

木下氏　公

三

浅酒を仕深姫子の車之

氷れ手通筆ゆ文され　松流

山梅花の御まよう若よ玉　暁窓

て

歳旦

[illegible]

[illegible]　豊後陽城下

[illegible]　流玉

万代の波乃都やえ寿栁　天保十　言都

せいけ

迴ふ笑と[illegible]

元日　京山脇氏

我も今朝一夏[illegible]四方祥　珍也

[illegible]

[illegible]

元日　丹後鶴ヶ岡

福神の[illegible]飾海老一色

[illegible]　日本元氏　大矢

言水門弟

元旦　三河吉田氏　及水

かゝみといや福寿草初汲

蟬や弥々車[illegible]琴

[illegible]

立古す心緑や日乃始　田中氏　仝

御幸なり[illegible]永山奥ふ君之

書[illegible]入ハ[illegible]梅の風吹て　蓼太氏　仝

仝

初雪やなの[illegible]

陽よ[illegible]

白雲の寶[illegible]

天地(チヽ)も乳房(ナヅ)捜(さぐ)らん年ても　全

柳阿堵(アド)垣(ガキ)めく梅の才化　定水

横雲をうり絹(キヌ)と言(いふ)て　松子

歳尾

京八師走(シハス)金(かね)の乳(ち)ふさを　全

秤(はかり)こま服(ふく)に詰(イヒ)こんで　牛車

世の師走(シハス)ものの数比叡(ひえ)　荷葛

言水引　牙門十三

元日

蓬萊(ほうらい)の須弥(しゅみ)荅(こたへ)海の愚(おろか)道　翁洲逢寺萩川言春

余(よ)齢(よわい)ゆくし月毛鶴(たづ)毛(げ)日

五百機(いほはた)の蔵(くら)の春とのも和日

冬尾

逐(おひ)てゆく年や緞(どん)よみあ雪日

元日

涼もとゑくもぐ福寿草　玖道

寶永八辛卯歳

歳旦　　尤壽軒

羽子板や昔なからの添臥姫　　翠栢

都方や節も大雷可白

勝鶏乃晴ハ答を載きて一要　　由之

同

穂俵も幾代経ぬらん松木立

玉やそらかぶりつるも菌固　　翠栢

雪乃瀬や里も茶子童棹うて是正　　松滴

仝

白雲も末や高間も福壽草

誰ゝ沖座して柳七抱　恭以

巣を開かせもち果報ふ郭公　　翠栢

聖節

八雲立つ水鉋や神代皿　可白
曙や玄年を仕歩く績皇輝　是正
保食乃神や定めん齋蘊閑　恭以
千早振百歳自へきそめ一要

分歳

枯くて年ゐ眼やや榊　狗翠栢
狐賣ルむハそれゐ井師をゐ氷花
入佐山雲乃滝手年を云ゞ鶏賀
年乃夢換枝つら都ゐ珍舎
ゐれと色よ年行むゐ九折光彦
煤しゐや梅ゐ榊ヲ包著也長
山ゑよ猟出されてやや節季維眠花
梅と雪よ酒も呑る行亀香川紫秋
年ゐ夜もつゐゐゐ鬼貫

宝永八辛卯季

翠栢曳付二丁目

鶏且　昌渓

常盤木ゐ初を新煮ゑ深うゐ
霞うゐろそ泥水の多　仙友
重畳添ゐ雪衣はま也て是候

同　如昭

翅まく働若し宿農春
隣も例の七種を摘　是候
元服乃十日宝うもらくゑ昌渓

仝　仙友

草も木もわすれぬ日の松

呼鈴もしづかに春の雪籠り　如照

集勤志納布撰さへ春うきく翠栢

仝

初夢や何の枝くの筆始　是候

歳暮

雪籠の對も今年や元方掃　如白

寒旦

多撰鴨居の上や数百年　白い会さん　延常

宝永八辛卯歳　翠栢曳付三丁目

拋雪

開春

筆試や天の一字よ地も慶さ

氣條（スヂエ）くしを挿乃爽（サハヤカ）慶志

春やおもたきものと出るな翠栢

賀水

同

盡さじ日影知つ筆始

多忠勤乃小多もなく拋雪

鴛のきよ〳〵糸を豊（トヨ）もん　鶏賀

全

頂キより星たる水の若こもり
あきれ方よりも之を鶏賀水
春雨や一間二間ぢ籠 晃貫
おもて

履端

事始めやすの山も日ヤタ新蓮阿
若水やいくたび山ぢ雪ぢ 桃嫗

除日

菅の根もさくやくれぬ年月 慶志
さるかきも空ぢまこそ降ぢ日 抛雪
今一叶降ぢの山もみたれ 翠栢

宝永八辛卯年

翠栢曳付四丁目

歳且

任詰

月よなよ敏ぢう変やきう始

任詰

あやめも菊ぢも屠蘇ぢ酌掛可中

屠蘇ぢ今の明りぢもも加祐

同

全

彩雲形ぢり八動ぢし家式様
鯛ぢ美也蝶足ぢ柴原任詰
お祓ぢ褂ヲキ綿の見ぢて可中

全

そ初の春庵の巍くら古法眼
霞む野もなれ雲乃綾ヲタリ 加祐
南向ク猫の牡ひのうらゝお 任説

暮年

全

盃の二ツ月まてつる年こゝ 任説
長太郎ク鮒をうする家鴨 可中
短尺や人死ぬ家の暮まぢ 加祐
白魚の四日市越して年ノ内 寸衛

寛永八辛卯年

翠桐曳付五百

雞口

掌且

望の碎や宗旦の利宝ま福寿草
匂ひ満ク長ク初春任吹
ゆるゝ日風の波ゝも和ク稚竹

全

明ク元春の前や宗障ル
行くゝもしのゝく鶯 秀林
能登守を待せの指おて潮舟

梅やしの鮫ふる元日哉
行くとしや人も和れて友
ゐむかへて蛙のみ座よ雞

歳旦

歯固や先数のまれ白さ　秀林
元日やそもそも墨ぢ閑夕　小倉山僧

歳暮

とし籠の振こそ年も今

宝永八辛卯年

翠桁哉付六丁目

家旦

月宮よ娥(ガ)まん阿堵(ト)と今朝ぬ衆拾葉
双調の吉も吉野ぬ年の松可水
雅旅百代嬪(ひん)なり初礼者仙子
神前やむとふ一ぢ羽つゐ宝山
都むく万歳楽や鳥乃頬　具谷
芝生まや我春ぬ印く雪迎　如森

歳暮

長寿を作の名到付よこうを来　拾葉

鶏旦

年玉の松やまち利生楽苔硯　月暁

福神や国を拇て　拇社　陸心

今宵こそやゝれを貰ふ

草鞋よ靴やうすき年も暮露洗

松竹くゝ海のかもめ哉　寛慶

宝永八辛卯年正月吉日

元日　仰雲軒

湯初さゝやかなる春もあけて朝拝公会

思ふ人も春とあけて朝拝公会

桃の葉めぐる桃の節句哉　勝園

元日　同つま

智恵の松や賢さうな代の春　勝園

時あれ梅ハ　文学ぶ人種川

氣保つ松ぞ千代ぞ春　種川

元日　同つま

女ごえの後初や宮貴くん伐公元
同おうくうしく試る筆獨周
よくもの掛燈さぬと春告て種山
元日　同つま
大服やこれも年ぬ死獨子石田加
遠茶ぬこやさ協門宿の春西田真幸
蓬周や試る筆ぬ堂かさめ石田真常
後そのおぬみさやや君ぬ重赤同
筆茶ぬこやさ古今の神の色熊川宗祥
後そ色いおくうふそすも百齢勝成大町

油もぬ琴やか蓬茶はんこ次郎春祥正
六張や年をえすむうふて真矩萩宮
　こ栄のむそめをかえて
女子ぬて初祝ぬ玉たの春愛度仙田
かんの栄をたてん一族の江戸吉真奥
か招代を先てたさ物ぬ祝初燈周同
楽ことあり協鬼や栄の町元珠石田

久々の句友乃中み
着や哈おくふ牧をふ芸余ぬ勝国大町
民芸ぬねさ次ふや民家のをひ公元谷野

餅突ぬあらしくせむうるふかな

智いろ迄よるせきや鍋くろ兵帯

餅花やさく月までハ歌座敷

煤をとて法花本作りの花芸哥

煤きてなろうかいき春ハ意同

もちさや文まを待宵ハ空腸同

芸若別のハ名心備の唱へ句言葉

蜜完ハ名寒そ初さ日生佛種同
奥

寶永八辛卯年　伏見　松花翁

元旦　御香宮君ハ俳諧御執行ありそれ　遊也

初そやきまゝ末ハひて元朝

むりいむちうろ双調周木

ほ〻ゑむ十三月の毛筆ゆく雲散

せいかからんあたうもかくれおたうもし

坊主でももれでもよいの年おれ　仝

き旬やうれうふ編乃り新遊也

歳且

穂俵七年よやいん勿んたまう　拳堂

花うもも白い果し吉里　桃　若木

編い(り)髪深のうふそそくまう始　弐也

代く梨子女男お狗飯や初午水　秋流

元旦

銅瓶汲もり餅小さき福寿草　芳洞子　都山

屠蘇を受る盃しき菓　也香

華清宮日南北向きそなえて　峯堂

案旦

ほの明の浦の初汐よこぜやり　仝

裏白やうれし衣紋の嫂もち　口和

百尋の昆布のまろめやうれし揚　若木

福寿楽のうまふて茶ひくきそ　姑　民也

ヨサン

元旦

雪松やまひくかうそうるかうも　魯也

初日乳のさ者と年　衣紋うれ　河清

山方ゑ殿向ひの春やかうの春　晋流

宮居門よ白魚のほま初日乳　梅里

ふれや山曙ーかきつた　志風

人丸よれ者まろん初玄冥　周木

歳尾

暗ーとも志ーて路楽や表里主ス　民也

去既よもーくよれ行ろり　奉堂

むいつぎて翁咲ろり柊　賞　魯也

あれくく世見すろん梅の花　周木

春合よ片ゐれやうしの雪　志来

高着の丸一年そ極シぬ　若木

井筒屋庄左衛板

年柄や妹たらす俤うら淡　魯也

茨さかう蛤儀や弄の玄　可杜

赤ハ八ツ一ツ雲ゆく山　鬼情

初礼やまさ山ばをきそひめ　鬼洞

曙の春や卅日やむしろかこ　也香

歳暮

師走ともたゝて諧楽や義望玉子　民也

ふいうきよ鰯うる柊　貴魯也

小春凡そ不足なき師走哉　鬼情

小家り師走残菊仲清舩　拳堂

煤さく音や荒磯のむしろ屏　都山

厨灰を厨ともいわく穂長　賛木

元旦

聖化乃九夷よろこさ
華氏撃壌老民そうり

伏陽　見山堂
也香

綾の帳ハ高簾乃使の初々しく

さゝめを和歌ぶくろ等春　都山

白魔さく野架乃柳初さよ　口和
杜和堂

不計

其二

烟枝や屠蘇の酒を揚乃盖

酔り来風ふかう尾ゆふ馬　也香

髪ゆくろ染ゝとまれかうひて　秋澄

又日軒
鬼情

其三

ヤカウ一

君の代や蝉丸ともに初日の影
うぐひすを黄鶯よめよ誰　桑堂
破作を楠志町よりて　也香

元旦

年玉やあるに拳と杖こうり　桑堂
小幡山いそうよまとと琴乃塔　都山
初詣いそや芳ル梅宜ろい秋宜　秋澄
をあ永日玩ゆくやまさ丸梅　可松
小腕よ弦音ありしめ　十三蔵　赤丸
初夢や荘子も雑煮喰ふうら　木幡　尾桯
年枕や娃むくかく次ぎるうしく　魯也
井肖屋庄兼校

賞初や延齢丹乃何ありうら　若木
福寿海のうみを花さくきうら始　民也
蓬莱より八十年ぬ毒乃矢う郎　可行
乃庵ハ城山もれ蔦家尾う郎　仇筆　猿簑
打風や浅黄辰ム三つ乃り　口和

紫雪

作豆もまを路攀や義里玉ゐ　民也
掛乞乃我の細布ま猿まゐし　若木
紙一重下やまま乃・楓（サクラハン）板　口和
年如ま路路ムの師ま不計
節季ゐやろ小何よ餅を搗　桑堂

寶永八辛卯乃とし

元旦

匂ひかう先入梅かの硯かな　伏見　逸突

一節ハ産よりもそれ綿服指　凝山

長しくも物ぞ多ハ絵路して　右山

仝

曙や香法七九産の春　右山

松のうらに羽なしハ雪　逸突

ふせ川小神ハ男掃さして　凝山

ことの宵より下女うてきと知と宝　舩　秋澄

き薫や煙風うぬくやうれ雪　遊也

雁風呂ハ赤土ゐをきの幸の暮　呵杜

むいきよ翁久へうの梅う里　魯也

師走ハ下作ゐ人ゐも　搖さゐも　尾程

去うさ我師走淡りん伏見川　也香

元旦

高原へ仙人落ゐ　恵情

みき給うゐ　風志　恵　魯也

日吉丸　貢杉さむ淡ーきて　都山

年三五九使者勢ひ小春ら
ちやうこえ蟬転福引九伽羅右山
花酒九月小万物の歩ゝ足て逸奨

鶏旦

支明の小袖おうしと乱九素風
元芳来や振めく宮九白嵐共方
蕎石駝やこと乳九花吹入帝日清
宝引九りとで小春ら聖梅弓笨毎
刷くから鞘ぶ花んけ二夜九楽風梅よ
初夏や扇風イて蕎の舞正統
遠八天ニ九玄約きたッひらく梅迄

歳旦

門松を実公達九二八比
扇の黄銭棟九万歳意来
水活く月九傍をふとゝせて鶏雅

今

接木ゟと花九主作く初春小
屠蘇九銚子の過よかそ夜如帆
二月や乾あゝ愛九招出て志来

志来

今

冠九蓋ゟ星ゟり初宿
ところくに裏白九山鶏雅
猫九名約自在九今の泊びて如帆

歳暮

暖に芥梅さそふて三人ぬし梅近
橙やむすめいもうと貧小ろう豪凡
冷えや父さすらへて京心志来
暮て来る私歳暮や松の風鶏雑
宵寝する人々れ仕舞や元旦如帆
俳気や床に串貝二隅射疑山
酒籠風さむひもゆしも結ふ右山
琴の音隠
琴の音や三年の雪逸笑

いつもの表六歌

宝永八辛卯歳

元旦

伏陽拾湖窓

春来ぬと水と改めし寿

可行

書初の夜をかくる四方山若木

紅唐紙を海棠よ筆なりけて遊也

歳旦

門ごとに松や万家の有柳

指ぞめよ春いまよりけり疑冬　猿丸

鶏日書懐　可竹

暁来夢又覚起開扃
驚見春風入戸庭
柏葉盃中新更好
梅花瓶裏老猶馨
探嚢今有幾多詠
屈指空過十九齢
休道貧居無賀客
門前掃砕眼先青

梦可竹

歳旦

窓門や雨八白乃もろこし　周李
初霜や水くさまる竹之君
年々又梅列へ下ろすとハ
ものこりかな翁之発句ニ云尽ル　意求
若水や筆貧ニ乏て久しく濱ん　掬泉

除夕

今夜こそ多くの花もやまらん　涼正君
こゝろもとなくかすむ春かな
ことしも去々年よけり

年去之　　雲井老之

歳竟夜閑數斷更寒梅飛
雪轉猶清夜瓶對敲眠不

得疑是春光到未明

年春

空寒年乃松の根うに秋風遊也
八指の丸柏さえて志風

閑吟

飯盛小粥のすゝめさ帰ル掬泉
ひゝきて翁哭そう秋霞 魯也
師元ゝそもゝて談笑名義主子ス民也

風暮

煤こきを梅こゝ斗後鯛 可行

井筒屋庄兵衛

寶永八辛卯歳

元日

伏陽遊里
招文室 幸貞

三姑

里のあそびふかせひろ二りう紙
人夜ゝ松とあんひおうぬ
馬さすかな未よの城やりそ
そのさかあさ心人
もゝむゝそ

松よりくものびちぶそこその酔
霞が実をこ里のつぶまゝ 鶴
孤月しの茶の花そうびこて 石助
独と口ふ庵れ尾をひさ衣
どち風の吹て海ーやあ蓋の 幸代
雁がまゝとうの塵言も嬉う 幸貞

寛七百拾布ニ
[illegible]
切戸をうつ書ハ秋うしろ神
すゑ所をこゞろも姉と捕(ツカ)
物多代西の
奥ハ縁と
前いまゝう赤
[illegible]
頭帽子つゝめど
控言葉ゆ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歳旦

武明

三ツ葉や井筒にくめる今年酒

栞草の梅も実となる春の雨

重暁

實永八辛卯歳正月吉祥日

京寺町二条上ル町

誹諧二物所 井筒屋庄衛板